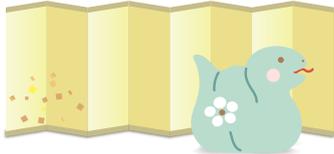
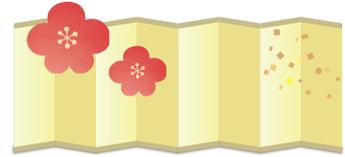


立憲民主党 さっぽろNEWS



国民の暮らしを豊かに



年頭あいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の第50回衆議院議員総選挙で、北海道12区の候補者全員が当選することができました。皆様の大きな力が下支えとなり、北海道での大きな勝利を勝ち取りました。その流れは、国会の風景も変えました。臨時国会で補正予算の採決も、それまでの一方的な強行採決とは打って変わって、議論の過程、さらに結果が大幅に変化しました。これも皆様の一票の力によって実現したことです。1月に召集される通常国会でも、その議論が益々活発になると思われまます。そして夏に行われる参議院議員選挙では、野党第一党として大きな飛躍が求められています。

それには、今一度原点に立ち返ることも必要です。民主主義の一丁目一番地は自治です。その自治を支えるのは情報の公開ですが、日本では不十分なままです。特に国の予算は、予算積算の内訳が全く公開されません。決算情報も同様です。ある事業についてどの費目にいくら予算が使われたのか、分かりません。そして議院内閣制のもとで国会と内閣は一体化しており、国会で与党議員は行政監視の役割をほとんど放棄しています。「情報を出せ、出さない」等の不毛なやり取りも終わりにしなければなりません。

衆議院議員選挙で国会の風景が変わり、夏の参議院議員選挙でその礎をさらに強固なものとしましょう。

この一年が皆様にとりまして、良い年となりますよう心から祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。

立憲民主党北海道総支部連合会 代表 逢坂 誠二

年頭あいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。能登半島地震とその後の豪雨により、今もなお過酷な避難生活を送られている被災地の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

「政治とカネ」の問題が最大の争点となった第50回衆議院議員総選挙で、立憲民主党は公示前の98を上回る148議席を獲得し、道内でも小選挙区で9人、比例区で3人の計12人が当選を果たすことができました。ひとかたならぬご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

物価が高い上昇を続ける中、中小企業では賃上げが十分進んでおらず、所得が低いほど物価高による負担増の影響が大きくなるという傾向が顕著となっています。また、人口減少・少子高齢化や自然災害への対応、子育て・雇用への不安等、先送りの許されない課題が山積しています。皆様の声を大切に、これらの課題を克服する決意を新たにしているところです。

第2次安倍政権発足以降、政府は数の力におごって国会での論議を軽視し、国民の間で賛否が割れる数々の重要法案が「強行採決」によって通されてきました。与党が過半数割れとなった今、そのような手法はもはや通用しません。

次なる戦いの場は今夏の参議院議員選挙です。「国民・生活者のための政治」へと転換できるのかが問われる戦いであり、自民党と公明党の巻き返しは許されません。国民生活を守るための政策を打ち出し、皆様からの信任を得られるよう邁進する所存です。

結びに、皆様にとりまして本年が幸多き年となりますことを心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

立憲民主党札幌支部 代表 菅原 和忠

魅力と活力を創造し、誰もが安心して暮らし 生涯現役として輝き続けるまちへ

札幌市の推計によると、2060年の人口は159万人となり20年と比べて38万人減少、経済活動を主に支える生産年齢人口（15～64歳）も60年には81万人（20年121万人）まで減少することが見込まれており、社会的・経済的課題の深刻化が懸念されている。2015年の札幌市長選挙で初当選を果たした秋元市長。就任して以降、「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」と「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」の実現に向け、施策を打ち出してきた。今号ではその一部を紹介する。

さぽーとほっと基金

市民のまちづくり活動を支える「さぽーとほっと基金」への寄付実績は累計で約8千件・約13億9千万円（いずれも24年9月実績）。助成件数は1857団体・約10億円。

駒岡清掃工場のリニューアル

稼働後約40年が経過する駒岡清掃工場を再整備し、運転開始は25年8月を予定。外部に供給できる電気と余熱を大幅に増やし、温室効果ガス排出量の削減と、真駒内地域へのエネルギー供給に貢献。

札幌国際芸術祭2024

冬の札幌の特色を生かした独自性のある芸術祭（24年1～2月）を発信し、約35万7千人が来場。東1丁目劇場施設と札幌文化芸術交流センターSCARTSを会場として初めて使用し、会期が重なる「さっぽろ雪まつり」とも連携して開催。

さっぽろオータムフェスト

24年は全24日間開催し、延べ300店舗が出店。天候にも恵まれ、来場者数は前年比5.3%増の250万6千人と過去最多を記録。

さっぽろ雪まつり

24年はコロナ禍を経て4年ぶりの全面開催。家族連れや多くの外国人観光客らが訪れ、大通会場とつどーむ会場を合わせた来場者数は8日間で前年比36.5%増の238万9千人。すすきの会場には前年比22.9%増の113万6千人が来場。

都心のリニューアル

道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と、高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、北5西1・西2地区の再開発を推進。北4西3地区や大通西4南で進む再開発の補助を通じて都市機能の更新も進める。

待機児童ゼロ

保育所・認定こども園の整備を進め、10年間で約1万3千人分の保育定員を拡大。また保育人材の確保に向け、潜在保育士の掘り起こしや、勤続3、6、9年の保育士を対象に一時金を給付。

まちなかキッズサロン「おどりんこ」

都心部に常設型の子育てサロン「おどりんこ」を16年8月に開設。秋元市長が保護者から直接寄せられた声を形にしたもので、累計で15万人（24年9月時点）が利用。



子ども医療費助成の拡大

安心して子どもを産み育てることができるまちの実現に向け、子ども医療費の助成対象を24年度から「中学3年生まで」拡大したほか、25年度からは「高校3年生まで」広げる予定。

児童相談体制の強化

市内2カ所目となる「(仮称) 第二児童相談所」の整備を推進。白石区の水道局白石庁舎跡地（本郷通3北）に新設し、25年度の供用開始を予定。市内東部の4区（白石・厚別・豊平・清田）を所管する。

農試公園の再整備

障がいの有無にかかわらず遊ぶことのできる「インクルーシブ遊具」を備えた広場を導入。誰もが利用しやすい公園を目指す。

パラスポーツの振興

みなみの杜高等支援学校（南区真駒内）でパラスポーツ専用の学校開放を17年から実施し、パラスポーツの普及拡大を推進。

官民連携窓口の開設

民間事業者からの提案を受け付け、事業化のコーディネートを担う官民連携窓口「SAPPORO CO-CREATION GATE」を24年7月に開設。

GX(グリーントランスフォーメーション)

G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合が23年4月に開催。脱炭素を通じて、エネルギーの地産地消や道内経済の活性化、日本や世界のGXに貢献していくことを宣言。

GX・金融コンソーシアム「チーム札幌・北海道」の設立

産学官金21機関によるコンソーシアム（共同事業体）を23年6月に設立し、GX産業の集積と、それを支える金融機能の強化集積を両輪で進める。

スタートアップ・エコシステムの構築

札幌市・北海道・経済産業局の3行政を中心とした支援機関「スタートアップ北海道」を設立。スタートアップの創出・育成、域外からの誘致促進等の取り組みをオール北海道体制で推進。

新たなビジネスの創出支援

国が北海道・札幌市と連携し、AI・DXを活用したビジネス創出を支援する「AI北海道会議」を設置。スタートアップによる北海道での実証・実装活動を後押し。